春風秋霜 4月号

平成２９年４月３日
島田市教育委員会だより
教育長　濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む　　佐藤一斎

１　新年度のスタートに当たって

昨年度に様々な検討をした平成 29 年度の教育課程がスタートします。年度当初は、行事や学級づくりに追われますが、教育課程編成で重視したことを常に意識することが大切です。教育課程は、国や県・市教委の方針を基に編成されているので、そこで話し合われた子供像を指導の原点として欲しいと思います。

また、組織や学校運営に違和感をもった時には、それを声にして欲しいと思います。多様な視点・感性で見ることと、それが大切にされる組織こそ変化の時代に対応できる組織だと思います。

平成２９年度は、新学習指導要領への準備の年度です。市教委の方針もその視点でつくられています。夢育・地育の推進や小中連携の充実、学校評議委員の拡大などを、単なる施策として捉えるのではなく、そのねらいを考えていただきたいと思います。

２　東町ソフトボール少年団員の国際親善大会出場について

３月１４日（火）に東町ソフトボール少年団の戒能大翔くん（六東小６年生）と鈴木昴至くん（六東小６年生）が市長表敬をしました。二人は、昨年８月に行われた全国大会での活躍が認められ、３月２３日から２８日にオーストラリアで行われる国際大会に出場しました。

市長表敬の中で、彼らがこの国際大会に出場することを以前から目指していたと聞き驚きました。最近の子供たちの夢が現実的で小さくなったと言われる中、小学生でも世界を目指す夢をもち、それを実現させるために練習を重ねてきたことは、私自身の子供時代にはなかったことなので、心から感心しました。

リオオリンピックに出場した長谷川純矢選手も小学６年生で世界を目指していましたが、こんな大きな夢をもつ子供が島田で育っていることに喜びを感じますし、これからも彼らに続く子供が現れることを願っています。

３　ありがとう体験記のリニューアルについて

ありがとう体験記をリニューアルしました。これまでの「ありがとうと言われた体験」「誰かの役に立った体験」だけでなく、「自分の生き方が変わった体験」も募集しました。

その結果、感動的な作文が多数集まり、教育委員一同楽しく読ませていただきました。素晴しい作文が多く、選考に苦慮することとなりましたが、子供たちの多様な体験を知ることができ、良かったと思っています。

また、先生方の負担軽減を考え、授業のまとめや式でのあいさつ文なども対象としました。そのため、短い文も掲載しています。子供の作文ではありませんが、島田第二小学校に寄せられた手紙も収録しました。子供への感謝が綴られているからです。

この、体験記が市内の全ての子供たちに読まれ、これからの生き方の指針になって欲しいと願っています。

４　価値付けについて

学校便りを読むと、子供たちの活動に対して価値付けを大切にしている学校が多いことに気付きます。自分の行動に価値付けがなされると、子供たちは意欲的になります。

ある研究会の講師は、「どんなに意欲的な子供でも、教材の系統性は分からないので、その視点で価値付けをすることは大切」と話していました。

汚れた黒板を拭いている子供を誉める時、拭いた行為を誉めるだけでは価値付けになりません。その子供が、係として仕事をしているなら責任感を誉め、係ではなく進んで仕事をしているなら、自主性を誉めるべきです。また、結果だけを評価するのではなく、過程を大切にした評価も求められます。

価値付けは、子供の行動だけではありません。地域の人材や文化にも価値付けが求められます。当たり前に行われていることでも、他地区から見たら貴重な活動はたくさんあります。地域資源への価値付けが、子供の自尊感情に繋がることは、これまでの和文化教育の研究でも明らかになっています。このように、様々な視点で価値付けを行うことが、子供の成長には欠かせません。

肘かけ椅子

池谷　英人　学校教育課長

『Auld Lang Syne（蛍の光）』

３月、４月は送別会や歓送迎会が開催され、別れと出会いが交錯する季節です。タイトルの曲は、NHK 紅白歌合戦に代表されるように、昔は送別会の最後になると何処からともなく聞こえてきて、みんなで離任の方々を見送ったことがあります。「Auld Lang Syne（蛍の光）」が、実は日本の曲ではないことを御存知の方は多いと思います。スコットランド民謡には「アニーローリー」「故郷の空」など昔から馴染みある曲が数多くあります。それは、明治時代の小学校唱歌に多くの外国曲が採用されたことにも因りますが、スコットランド民謡が「ヨナ抜き長音階（五音音階）」から出来ており、日本の民謡や童謡の音階（陽旋法）と同じであることとも深く関係しています。

この日本的な音階（ヨナ抜き長音階）は、「桃太郎」「北国の春」千昌夫など、ほとんどの童謡・演歌で使われ、「上を向いて歩こう」坂本九、「夏祭り」JITTERIN'JINN、「つけまつける」きゃりーぱみゅぱみゅ、「恋するフォーチュンクッキー」AKB48、「恋」星野源などでも使われています。民俗学的には、日本とスコットランドの音階の一致は偶然ということなのですが、これら両国の曲に触れた時に、少しでも「親しみ」や「和の香り」を感じたならば、皆さんは素晴らしい音楽的センス（感性）を持っていらっしゃるということになります。

さて、私事ですが、イギリスに 20 歳頃観光で初めて訪れ、30 歳頃に県の競技団体として中学生だった成岡選手や小林選手（現藤枝東監督）等を引率してマンチェスター方面へ遠征しました。その後はミュージカルを観るために訪れ、教職大学院時は「海外教育」の授業単位として、セント・アンドリューズ大学で「bullying」の講義を受けることができました。いじめは、西欧でも重要な問題であり、人種や宗教や階級差等が複雑に絡み合い日本以上に深刻な面があることを知りました。その夜はセント・アンドリューズ大学の教職員と一緒に飲み交わしたのですが、彼らからはスコットランドが連合王国から行政的に独立していることや、ウォレス、アダム･スミス、ワット、等の偉人達の自慢話、イングランドとの戦いの歴史（映画ブレイブハートの話）を延々と聞かされ、日本とは異なり祝典曲として「Auld Lang Syne」、国歌として「Flower of Scotland」を一緒に歌ったのでした。